

「離職率」

1. 「離職率」とは

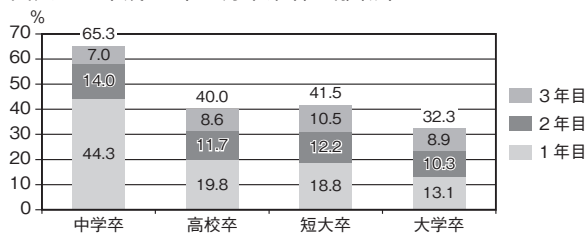
離職率とは、ある時点で仕事に就いていた労働者のうち、一定期間のうちに、どれくらいがその仕事を離れたかを比率として表す指標です（Wikipedia より）。

2. 卒業後3年以内に3割以上が離職！

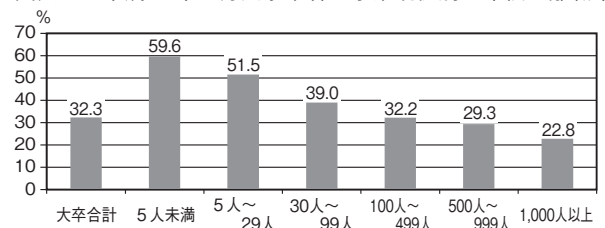
厚生労働省が昨年11月に発表した、平成24年3月卒業者の離職状況によると、卒業後1年以内に離職する割合は大学卒者13.1%、短大卒者18.8%、高校卒者19.8%、中学卒者44.3%となっています。

また、卒業後3年以内の離職率は大学卒者32.3%、短大卒者41.5%、高校卒者40.0%で、中学卒者にいたっては65.3%と、半数を超えている状況です（図表1参照）。事業規模が小さいほど、離職率が高くなっています（図表2参照）。さらに、離職率と就職内定率には負の相関関係があり、内定率が低い年に卒業した者は、離職率が高くなる傾向となっています（図表3参照）。

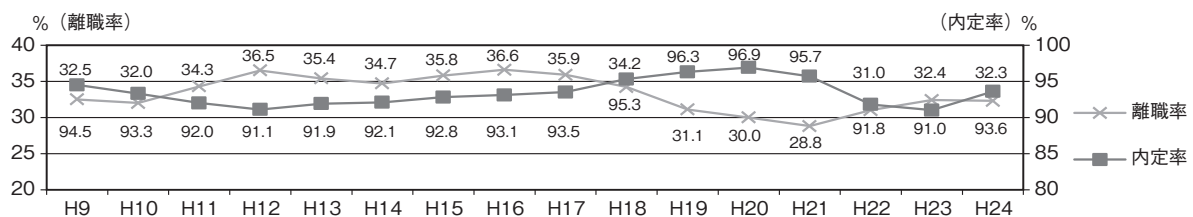
図表1 平成24年3月卒業者の離職率



図表2 平成24年3月大学卒者の事業規模別3年後の離職率



図表3 大学卒者の内定率と3年以内離職率



厚生労働省 新規学卒者の離職状況（平成24年3月卒業者の状況）

3. 離職率を低くするために…

新卒者における離職率はかなり高い水準といわざるを得ない状況です。待遇や労働環境、人間関係など理由は様々ようですが、離職は、再就職先を求めなくてはならない当人のみならず、多額の費用をかけて人材育成する企業側にもマイナス点が多く、また、離職率が高いことで世間から「ブラック企業」との評価をされかねません。離職率を低くするための原因探求・対策展開が重要です。

閑話ひとつ

- ▶ 観光庁は6月15日、2016年のインバウンド（訪日外国人旅行者）が過去最高のペースで1,000万人（6月5日時点）を超えたと発表しました。インバウンドは2015年に1,974万人となり、今年は2,000万人を超えるのは確実な状況で、政府は東京五輪が行われる2020年のインバウンド目標2,000万人を4,000万人に引き上げたところです。
- ▶ 実際、東京や関西の観光地に行くと、自分が外国にいるのではないかと錯覚に陥るほど中国、台湾、韓国の観光客の方で溢れ返っています。
- ▶ 一方、我が福島県は、震災前2010年の外国人延べ宿泊者数が87,170人（47都道府県中28位）、直近2015年が44,020人（44位）となっています。原発事故の影響もあり、残念ながら大変厳しい状況です。
- ▶ うれしい話題もあります。4月に文化庁が新たに認定、発表した日本遺産は19件、うち2件は福島県の「会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～」と安積疎水をテーマとした「未来を拓いた『一本の水路』」が選ばれたことです。
- ▶ 官民一体となったインバウンド強化は当然ですが、まずは私たち自身が身近な「郷土の歴史、文化、自然」の良さを改めて見直すことこそ大事なかもしれません。ところで、私がお奨めの観音札所を最後に紹介します。それは「会津ころり三観音」のひとつ、西会津町の番外札所3 如法寺「鳥追観音」です。皆さんも是非出かけて観音堂の左甚五郎作「隠れ三猿」を見つけてみて下さい。（T.A）